

○26番（近藤司）（登壇） 皆さん、おはようございます。

自民クラブの近藤司でございます。自民クラブを代表いたしまして、通告に従い、順次質問を行います。

まず最初に、第六次長期総合計画の中間見直しについて伺いいたします。

新居浜市の第六次長期総合計画は、令和3年度からスタートし、10年後の令和12年度を目標年度としています。そして、中間年に当たる今年度、見直し作業を行っていますが、本年12月までに見直し案が策定され、議会への説明、パブリックコメントを経て、2月議会に見直し案が上程されることになっています。

そこで、まず、市民文化センターの建て替えについて伺いいたします。

古川市長が、昨年11月の市長選公約として、市民文化センター新設の再検討に伴う代替案として多目的アリーナ構想を打ち出され、その後、建て替えに向けての予算化や作業は止まっています。昨年11月に古川市長が就任されてから、12月議会、本年2月議会、6月議会において自民クラブの議員が一般質問を行っていますが、その答弁として、12月議会では、市民文化センターの建て替えについての判断時期については市民との対話を深めていく中で、令和9年度が大ホール等の使用目標年数の到達時期であるので、それを迎える前にしっかりと判断をしていきたいと答弁しています。

2月議会では、現施設の長寿命化の可能性について専門家の意見を伺い、長寿命化対策の可能性や整備の方向性について、できるだけ早期に判断してまいりたい。また、6月議会では、市民文化センターの在り方については、7月から始まるタウンミーティングやアンケート等、市民をはじめとする関係者や有識者などの意見も参考に、多くの市民が利用でき、次世代を担う子供たちが、夢や希望、誇りが持てる施設となるよう、一定の方向性を見いだしてまいりたいと答弁しています。

そこでお尋ねいたします。

現施設の長寿命化について、専門家の意見は聞かれたのでしょうか。聞かれているのであれば、どのような意見が出されたのでしょうか。

また、タウンミーティングやアンケート等による市民文化センターの在り方については、どのような意見や要望があったのでしょうか、伺いいたします。

基本計画では、本事業における施設整備費に関しては、210億円程度が想定されていますが、施設内容の精査、施設規模や附帯施設の見直しや再検討はされているのでしょうか。現時点での状況をお伺いいたします。

次に、多目的アリーナの建設について伺いします。

2月議会の伊藤優子議員の一般質問で、古川市長は、私の公約に関する市民文化センターの再検討に伴うアリーナ建設については、いずれも立地や財源など数多くの課題がございますとともに、市民のニーズや本市の発展につながるコンセプトを立てるためにも、市民の皆様との対話を深めながら、今後、慎重に判断してまいりたいと考えておりますと答弁しています。

新聞報道によりますと、中村知事は8月の定例記者会見で、松山市が

5,000席以上の多目的アリーナ整備を目指すJR松山駅西側の候補地について、プロバスケットだけでなく、大規模なコンサートなどにも対応するには面積が狭い可能性があるとの見方を示しています。

そして、その上で、整備の妥当性について丁寧な検証を求めています。

また、そのほかにも県内でアリーナ建設の検討が行われている自治体もあるようです。

古川市長の2月議会での答弁にもありますように、アリーナ建設には数多くの課題があるので、市民の皆様との対話を深めながら、今後、慎重に判断していくとのことですので、判断に急を要する市民文化センターの建て替えとは切り離して考えられてはいかがでしょうか、市長の見解をお伺いいたします。

次に、総合運動公園の建設についてであります。

総合運動公園についても、既に基本構想、基本計画が策定され、基本計画の事業スケジュールでは、令和5年度から9年度までの5年間を第Ⅰ期としています。

2月議会で古川市長から事業見合わせるとの方針が示されました。基本計画の中には、延べ床面積が1万6,500平方メートル程度で、観客席が4,000席から5,000席程度のアリーナ機能を有する総合体育館の建設計画が入っています。本年2月議会で行った都市基盤整備促進特別委員会の委員長報告では、本市の財政状況が厳しいことや将来の人口減少も見据えた上で、事業を着実に推進していただきたいと要望いたしました。

市長の多目的アリーナ建設構想も、総合運動公園基本計画の中にある総合体育館計画の中で検討されてはいかがでしょうか、市長の御所見をお伺いいたします。

第六次長期総合計画の中間見直し案が来年2月議会に上程されることになっていますが、この3事業については、それぞれどのように見直し計画に反映されるつもりでしょうか、お伺いいたします。

○議長（田窪秀道） 答弁を求めます。古川市長。

○市長（古川拓哉）（登壇） おはようございます。自民クラブ代表の近藤議員さんの御質問にお答えいたします。

第六次長期総合計画の中間見直しについてでございます。

まず、市民文化センターの長寿命化についての専門家の意見についてお答えいたします。

市民文化センターの長寿命化につきましては、躯体と設備等の調査を行うこととし、7月から8月の間に外観の劣化調査を行いました。診断結果といたしましては、コンクリートの状態については、平成24年度の耐震診断業務の建物調査と比較して、劣化が想定ほど進行していないことが確認できました。そのため、今後、施設の設備の状況を含め検討を進め、専門家の意見もいただきながら、長寿命化の可能性についても早期に判断してまいりたいと考えております。

次に、タウンミーティングやアンケート等による市民文化センターの在り方についての意見や要望についてでございます。

タウンミーティングでのアンケート結果につきましては、今後、新居浜市が力を入れるべき施策については、文化センターの建て替え、市

長公約について、早期に実現してほしい公約はでは、近隣にはない文化施設機能を有したアリーナの建設がいずれも上位となっており、市民の関心も高いと感じております。

次に、現時点での施設内容等の見直しや検討状況等についてでございます。

新市民文化センターの施設内容等の見直しについては、今後の方向性で大きく変わりますことから、現在は検討しておりません。

次に、アリーナ建設を市民文化センターの建て替えと切り離して考えてはどうかについてでございます。

アリーナの建設につきましては、市民文化センターの整備計画に代わる多目的に使える施設として可能性を求めたいと、これまで申し上げてまいりました。市民文化センターの建て替えと切り離して考えてはとの御提案については、現在の本市の財政状況等を鑑みますと難しいものと考えております。

次に、私の多目的アリーナ建設構想についてでございます。

総合運動公園につきましては、先に優先すべき施策や課題が山積している現状や事業費をはじめ、現実的ではない部分が多いため、一旦立ち止まり、見合わせることにいたしました。その上で、私がイメージしているアリーナにつきましては、近隣の施設との相乗効果が生まれる場所において文化機能を有するとともに、ふだん使いのできるものを構想として抱いておりますため、総合運動公園基本計画とは切り分けて検討してまいりたいと考えております。

次に、第六次長期総合計画の見直し案への反映についてでございます。

総合運動公園については、事業の見合せに伴い、後期5年間の計画からは外れるものと考えており、市民文化センターの方向性を再検討し、その検討結果を踏まえて多目的アリーナの事業の取組を整理してまいりたいと考えております。

○議長（田窪秀道） 近藤司議員。

○26番（近藤司）（登壇） 質問を3点行います。

1点目、新市民文化センターの建設場所は、現市民文化センター、中央児童センター及び中央公園を含む2万4,800平方メートルのエリアで、再整備に当たっては中央児童センターや中央公園も一体的に整備を行うということになっていますが、新市民文化センターの整備事業費約210億円の中には、中央児童センター及び中央公園の整備費も含まれているのでしょうか。複合施設を含む新市民文化センターの整備事業費とそれ以外、屋外、半屋外の整備事業費に分けると、それぞれの整備事業費は幾らになるのでしょうか。

また、それ以外の事業費の中には、別館の中ホールの解体費用も含まれているのでしょうか、お伺いします。

2点目、市民文化センターの在り方について、関係者や有権者などの意見も参考にされると言われております。先ほどアンケートは取られたということなんですけど、市長自ら文化協会に所属する各種団体や周辺地域の住民の意見など、聞く場を持たれたのでしょうか。

3点目、事業化のスケジュールについてですが、令和10年度から既存施設の解体を含めた新市民文化センターの整備工事に着手し、令和14年度の供用開始を目標としています。

が、令和7年度から事業者の選定、それに引き続いての基本設計、実施設計、令和14年度の供用開始等のスケジュールを考えると、市長が言われておりましたように、早期の方向性の判断が必要です。先ほど耐震診断ですか、その辺りを検討されたようなんですけど、ちょっとまだ結論が出ないということなんです。現時点での市長の御所見を再度伺いいたします。

○議長（田窪秀道） 答弁を求めます。古川市長。

○市長（古川拓哉）（登壇） 近藤議員さんの御質問の2点目と3点目についてお答えをいたします。

まず、文化センターの在り方について、私自らが文化協会に所属する各種団体や周辺地域の住民の意見などを聞く場を持つのかについてでございます。

私は市長就任以来、文化協会の総会をはじめとして、文化協会の所属団体の皆様が開催される行事にお伺いした際には、文化センターや文化、芸術等に関する御意見をお聞かせいただくとともに、タウンミーティングにおきましても様々な御意見をお伺いいたしました。

今後、文化センターの在り方について検討を進めてまいります際には、可能な限り私も足を運んで、各界各層から丁寧に御意見をお伺いしたいと考えております。

次に、事業化のスケジュールにつきましては、施設の使用目標年数が令和10年3月と間近に迫っておりますことから、先ほど答弁いたしましたとおり、専門家の意見もお聞きしながら、できるだけ早期に、まずは現施設の使用期限を判断したいと考えております。

○議長（田窪秀道） 守谷企画部文化スポーツ局長。

○企画部文化スポーツ局長（守谷典隆）（登壇） 近藤議員さんの1点目の御質問にお答えいたします。

新市民文化センターの整備事業費約210億円の中には、中央児童センター、中央公園の整備も含まれているのか、複合施設を含む新市民文化センターの整備事業費と屋外、半屋外の整備事業費に分けると整備事業費は幾らになるのか、その中に別館中ホール解体費用は含まれているのかについてでございます。

基本計画でお示しをしております施設整備費約210億円につきましては、中央児童センター、中央公園の整備を含んだ金額となっております。内訳といたしましては、建築として約188億円、大ホール、本館、中ホールを含む別館、図書館等の解体工事、中央公園の整備等で約22億円となっております。

○議長（田窪秀道） 近藤司議員。

○26番（近藤司）（登壇） 要望しておきます。

新市民文化センターの整備方針には周辺地域のエリアコンセプトの視点が入っています。このコンセプトの中には、子育て世代、子供、中高生、若者、働く人、居住者を主たるターゲットに、日常と非日常の相乗効果によって新しい魅力を生み出す町などが入っております。

先ほどの答弁の中で、財政状況を考えて、アリーナ建設と新市民文化センターを切り離しては考えられない、どちらかというようなことだろうとは思いますが、古川市長には本事業のエリアコンセプトの核施設となる新市民文化センターを現在の場所に建設する方向性を

早期に決断していただきますよう強く要望いたしまして、次の質問に移ります。